

予 算 要 求 資 料

令和 8 年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：環境管理費 目：公害対策費

事業名 核融合科学研究所環境保全対策事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境エネルギー生活部 環境管理課 環境安全係 電話番号：058-272-1111(内2985)

E-mail：c11264@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 501 千円 (前年度予算額： 662 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	662	0	0	0	0	0	0	0	662
要求額	501	0	0	0	0	0	0	0	501
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- 核融合科学研究所(以下「研究所」という。)は平成9年に土岐市に移転され、核融合発電を実現するための基礎研究(高性能プラズマの生成・閉じ込め)を行っていた。
 - 平成25年3月28日締結の「核融合科学研究所周辺環境の保全等に関する協定書」に基づき、地元3市(土岐市、多治見市、瑞浪市)と県とで安全監視委員会(以下「委員会」という。)を共同設置し、研究所が実施する重水素実験(注)を監視してきた。
 - 平成29年3月7日から本格的に重水素実験が開始され、実験中の監視と周辺環境への影響の評価を行うため、継続的に中性子線及びトリチウム濃度の測定を行ってきた。
 - 令和4年度に重水素実験が終了後、重水素実験終了後においても周辺環境への影響の評価を行うため、継続的に中性子線及びトリチウム濃度の測定を実施していたが、中性子は今後新規の発生はないため、令和5年度をもって測定を終了し、令和6年度以降はトリチウム濃度の継続測定を行っている。
- (注)プラズマの性能を向上させるため、通常の水素より質量の大きい重水素を用いてプラズマを生成しようとする実験であり、これにより中性子線(放射線)とトリチウム(放射性物質)が発生する。

(2) 事業内容

委員会により、重水素実験終了後における監視と周辺環境への影響等の評価を行う。

- 安全監視委員会の開催
- トリチウム濃度測定(委員会が実施)

(3) 県負担・補助率の考え方

委員会は県と地元3市が共同で設置するため、県も一定程度の負担が必要である。
委員会の活動経費（負担金）については、県及び地元3市でそれぞれ応分の負担をする。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	20	委員会等旅費
負担金	481	委員会負担金
合計	501	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

(1) 各種計画での位置づけ

委員会は、研究所の重水素実験終了後も周辺環境の影響を評価する必要があり、委員会設置期間中は、委員会開催経費、監視に係る測定経費等が必要となる。

(2) 事業主体及びその妥当性

県と地元3市が一体となって関わることで、地元住民の安全・安心の確保に寄与することができる。

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

核融合科学研究所（以下「研究所」という。）での重水素実験終了後においても、核融合科学研究所安全監視委員会（以下「委員会」という。）が重水素実験による周辺環境への影響の監視等を行うことにより、周辺住民の不安解消を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						

○指標を設定することができない場合の理由

事業の性質上、数値目標の設定が困難であるため

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	令和5年3月22日 第12回委員会を開催。 第6期目の重水素実験後、安全監視委員会を開催し、委員会において重水素実験が安全管理計画のとおり実施され、研究所が行った中性子及びトリチウムのモニタリング結果並びに委員会として測定した結果に異状はなく、周辺環境への影響はないとの認識で一致した。
令和5年度	令和6年3月25日 第13回委員会を開催。 委員会において研究所が行った中性子及びトリチウムのモニタリング結果並びに委員会として測定した結果に異状はなく、周辺環境への影響はないこと、及び令和6年度以降の環境モニタリングについて、中性子線の測定を終了し、トリチウムの測定を継続するとの認識で一致した。
令和6年度	委員会において、令和6年11月20日及び令和7年1月17日に研究所周辺環境水中トリチウムの測定を実施した。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 2	県内に設置された研究所の周辺住民の安全・安心を確保するため、監視体制を確立することは必要性が高い。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	監視、確認することにより研究所の安全体制について改善されており、一定の成果がある。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	関係市との役割分担により効率化が図られている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 重水素実験終了後の周辺環境への影響の評価等を継続的に行う必要がある。
--

(次年度の方角性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 平成29年3月7日から本格的に重水素実験が開始され、重水素実験終了後も周辺住民の関心はかなり高く、引き続き県として安全・安心の確保に取り組む必要がある。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	<div> <div></div> <div>【〇〇課】</div> </div>